

# ナルナル的 菌活書評

## 【NHK 朝ドラ主人公のモデルの生涯】

貧苦にめげず、恋女房を支えに、不屈の魂で知の種(ボタニカ)を究め続けた稀代の植物学者を描く、感動の長編小説。

NHK の朝ドラで今放送中なのが「らんまん」です。実在した日本の植物学の父と呼ばれる牧野富太郎をモデルとしたドラマです。ここで、主人公と書かなかったのは、実際の牧野の人生の歩みを忠実にドラマ化した物ではなくて、土佐の宣伝ドラマ風にジョン万次郎と交流があったり、自由民権運動に加わり投獄されたりと、かなり空想が入っているようです。

なので、朝ドラはおススメしませんが、今回ご紹介する本はとても素晴らしいのです。牧野を取り巻く自然や人々を愛情たっぷりに表現しているからです。

普段、ガサツなネットの情報や、読む本も科学者が書いた味気のない文章ばかりだと気づかされた次第です。

著者は直木賞作家です。この方の小説を読むのは初めてですが、野山の風景や出来事をとっても美しく詩的に表現されていて、心が洗われるようでした。

牧野富太郎は、幼少の頃から植物が好きで、とにかく名前を知りたがったようです。

四国土佐の山々を駆け回り。何千、生涯では何万もの草花の標本を作り、古今東西の植物図鑑を読み漁り、学名を付ける事を朝から夜遅くまで時間を惜しんで行いました。

	低い ⇄ 高い				
難易度	★	☆	☆	☆	☆
活菌度	★	☆	☆	☆	☆
面白さ	★	★	★	★	☆
新規性	★	★	★	★	☆



牧野富太郎の名は、ナルナルの仕事が始めてから知りました。造園学科だった大学の授業で植物標本を作った事はありませんが、いい加減なもので、図鑑と比較して名を書き込むなどという手

の込んだことはしませんでした。ですから、植物の名には全く詳しくありません。

数年前に、当社の名前を株式会社ナルナルとしましたが、牧野の誕生日である5月22日に社名変更の登記をしました。牧野は、財布の中身を気にせずに、どんどん研究にのめりこみます。そんな人生に感ずるものがあるのです。

朝ドラが放送されるという事で、牧野の生涯についてほぼ知らない事に気づき伝記を読もうと思いました。いろいろと出版されているようですが、私が選んだのが、この本でした。

※1864年生まれの田中延次郎は日本における最初の近代菌類学書、『日本菌類図説』を執筆しました。変形菌(粘菌)「英名はスライム」の名付け親だとこの本で初めて知りました。それ以前は、動菌(どうきん)、菌虫(きんちゅう)と呼ばれていたそうです。

植物の分類の初歩から、名付ける楽しさを伝えてくれる初心者向けの良書です。

書名	ボタニカ
著者	朝日 まかて
出版社	祥伝社
発行日	2022/1/20
価格	本体 1,800 円+税